

桐生市議会 経済建設委員会 行政視察報告書

視察都市	東京都大田区（人口 733,848 人）
視察日時	令和5年10月3日（火） 午前10時00分 ～ 午前11時30分
訪問場所	〒144-0041 東京都大田区羽田空港一丁目1番4号 HICity ZONE K 209号室 Tel : 03-5579-7971
参加者	久保田裕一 飯島英規 丹羽孝志 人見武男 岡部純朗 福島賢一 小島強
視察項目	・ HANEDAxPi0 の取組について

## ■ 視察概要

視察項目 ・ HANEDAxPi0 の取組について

## (1) 説明要旨

## ・ 説明担当者

大田区産業振興協会 羽田 Pi0 推進部

ディレクター

瀧澤 雄太 様

アシスタントマネージャー 久保田 航 様

## ・ 大田区の概要

人口は約74万人で東京23区内では第3位、面積は約62km<sup>2</sup>である。1947年に大森区と蒲田区が合併し「大田区」となる。住宅都市であると同時に臨海部は京浜工業地帯に含まれる工業都市でもある。町工場が集積する日本を代表する「ものづくりのまち」である。区中心部に繁華街・歓楽街の蒲田や臨海部の羽田空港、日本屈指の高級住宅街として知られている田園調布など多様な側面がある。高度な技術力を有するものづくりの中小企業が、合わせて4,229件あり、23区内で断トツの工業数であり、付加価値の高いものづくりを行う精鋭企

業が多くある。

工場の特徴としては、

- ①小規模な企業（従業員9人以下の企業が約8割）
- ②様々な業種が存在
- ③高い技術力を保有
- ④企業間のネットワークが充実（仲間まわし）

これらの特性を生かして「一品もの」「多品種少量」「難加工」「試作・開発」を得意としている。高度な加工技術で航空宇宙やロボティクス、医療・福祉の先端産業の分野を支えている自負がある。



↑羽田イノベーションシティのロケーション



↑大田区産業振興協会  
羽田Pi0会議室にて

#### ・羽田イノベーションシティについて

「先端」と「文化」の境界を越えた交流を誘発し、新たな価値創造を実現する日本初のスマートエアポートシティである。江戸の末期ごろにまちが作られ、戦前までは競馬場や海水浴場も存在していた。戦後GHQが48時間強制退去を命じ、航空基地として利用されていた。GHQが米国に戻った後も、航空施設として利用されている。近年、騒音対策として滑走路が沖合の方へ移動したことで、空き地ができ、跡地利用のための行政間協議が行われた。その結果、大田区がこの地域を購入することになり、世界と地域をつなぐ「新産業創造・発信拠点」をコンセプトに掲げ、羽田イノベーションシティが建設された。先端産業（モビリティ、健康医療、ロボティクス）の分野と文化産業（伝統、観光、食、芸術、温泉、音楽・映像・演劇）を軸としたまちづくりを自治体と公募の民間企業（鹿島建設を代表とするSPC）が連携して開発・運営を行っている。2023年11月のグランドオープンに合わせて先端医療研究センター（藤田医科大学）やFuture Lab HANEDAを準備している。

また、日常的に自動走行バスの運行や様々なテーマ沿ったロボット技術を活用した実証実験を行っている。大田区は「SDGs 未来都市」と「自治体 SDGs モデル事業」に選定され、羽田イノベーションシティを中心とする新産業と匠の技が融合するイノベーションの創出を通じて、区民の生活利便性の向上や環境改善（CO2 排出など）に努めている。

・ HANEDAxPi0（ハネダピオ）について

大田区が直接産業支援する場所を HANEDAxPi0 といい、羽田イノベーションシティの ZONE K にある。HANEDAxPi0 の機能としては先端産業が入居するテナントゾーンと交流空間ゾーン（Pi0 PARK）がある。

テナントゾーンについては、大田まちづくり公社が大田区から委託を受けて管理運営する。ゾーン K の 1 階と 2 階にオフィスや研究ラボなどの用途として企業（ARRI や NTT 東日本や METALISM など）11 社に貸している。航空に近いため、企業スタートアップとしての利用やゆったりとした空間での商談スペースとしても利用されている。

なお、Pi0 PARK は大きく分けて 3 つに区分されている。

① コワーキングスペース

コワーキングスペースは 2 万 2 千円から利用ができ、オプション料金を追加すれば、法人登録や個室スペースも利用できる。

② イベントスペース

イベントスペースは、最大 120 人収容ができ、5 時間、5 万 5 千円で利用ができ、YOU TUBE などへの配信ができる設備が整っている。

③ 大田区の加工品の展示

Pi0 PARK では、大田区産業振興協会が主催するイベントも開催している。イベントテーマも特化し、穴をあけるのが得意な企業が集まった「穴あけ展」や柔らかいもの固いものを加工するが得意な企業が集まった「やわらかたい展」など開催され、3 時間の開催で、平均商談件数が 260 件以上もあり、契約件数も多数にのぼり、効率がよい。



↑ 大田区加工品の展示場

↑ 加工展示品

↑ PiO PARK

その他、大田区企業を中心とした勉強会を行っている。

① グローバルビジネス勉強会

海外市場を目指す大田区企業の勉強会

② ベンチャーフレンドリー塾

スタートアップとの連携に積極的な企業の醸成

③ 自社商品の作り方勉強会

脱下請けのメーカー化に向けた取り組み

立地を活用した海外メーカーとのスタートアップ連携イベントの実施

・（公財）大田区産業振興協会について

設立は 1995 年、職員数 50 名、出資機関は大田区役所 100% であり、理念は「大田区産業の成長を発展のために」である。中小企業向け支援を様々行っているが、特に「受注発注マッチング」に関する事案を積極的に行っている。区内企業を相談員が訪問し、国内外企業や研究機関などへ区内企業の紹介を行っている。令和 4 年度相談件数は 806 件あり、成立金額は 53,497 千円であった。

（2）主な質疑応答

事前質問に対する回答

Q. HANEDA x PiO として、または、大田区としてもものづくりに対してできる支援はどのようなものか？

A. 大田区産業振興協会のサテライトオフィスに 8 名が勤務し、区内企業に対してミニ展示会、勉強会や交流や受注発注マッチングの相談窓口を行っている。その他、海外ビジネス相談員も配置されている。

Q. 官民連携による官と民の役割はどのようになっているか？また、現在、関与している事例などがあるのか。

A. 大田区としてまちづくりのコンセプトを提示し、SPC が採択して実施している。大田区は、毎年 SPC が行った開発事業をモニタリングし、結果を HP で公表している。

Q. HANEDA 共創プラットフォームについて、「グローバルビジネス勉強会」や「ベンチャーフレンドリー塾」「自社商品のつくりかた勉強会」への WEB での参加は可能か？また、参加条件などについて。

A. WEB での参加は可能であり、参加条件はコンセプトに賛同し、事前に主催者相談し、許可を得る必要がある。

Q. 超専門技術ミニ展示会の参加資格（参加費など）はどのようになっているか？

A. 参加費はなく、展示会の趣旨に賛同し、原則、区内企業であること。職員の創意工夫で運営している。

Q. 羽田イノベーションシティの整備費用と維持管理費について。

A. 大田区が羽田イノベーションシティ土地を約 165 億円で購入し、50 年間、定期借地金として、約 4 億円/年が大田区の収入となる。HANEDaPi0 の維持管理費用については公表していない。

Q. 羽田イノベーションシティの事業主体はどこか？

A. 羽田みらい開発株式会社という特別目的会社（SPC）である。SPC は、鹿島建設、大和ハウス工業、京浜急行電鉄、日本空港ビルディング、空港施設、東日本旅客鉄道、東京モノレール、大田区産業振興協会の HANEDaPi0 は大田区となる。

Q. 施設整備にあたっての大田区などからの補助などはあるか？

A. 行政からの補助はない。

Q. テナントゾーンに入居するにあたっての費用について。

A. 1㎡あたり 6,500 円である。その他、内装工事料金がかかる。

Q. HANEDAxPi0 の整備前の利用想定と現状について。

A. 17 区画中 16 区画が利用されており、稼働率が高い。大田区の企業の割合が多い。Pi0 PARK についてもオープン日の令和 3 年 10 月以降イベント、ワーキングの稼働が伸びてきている。

Q. HANEDAxPi0 がものづくりに関連する中小企業に与える影響について。また、利用する企業などからの反応はあったか？さらに、関与している事例などについて。

A. 大田区企業に発注受注マッチングや勉強会や展示会などにより、交流やビジネスチャンス窓口が広がりつつあります。

Q. 交流支援、事業創出への支援、実証実験への支援、それぞれの機能について具体的な実績があるか。

A. 交流支援については、大田区まちづくり公社が行っている。事業創出への支援は、HANEDA 共創プラットフォームの勉強会などを通して行っている。実証実験への支援は、HANEDAxPi0 やテナント企業からの要望に応じて、羽田イノベーションシティ内での実証実験の支援を行っている。

Q. 羽田空港直結というメリットをどのように活かして事業展開をされているか？

A. Pi0 PARK では、海外企業とのイベントに利用されている。

Q. 大田工業連合会と桐生機械工業連合会では「事業継続計画（BCP）強化に向けた総合応援協定」を結んでいます。このように大田区とかかわりがある自治体などがコラボして HANEDAxPi0 を活かした連携事業などを実施できる可能性はあるか？

A. 今後、桐生機械工業連合会との広域連携を深め、連携事業化を模索していきたいと思う。

飯島委員より質問

Q. なぜ SPC を作って運営しているのか？

A. 大田区としては、公募した結果、鹿島建設を代表とする SPC となりました。憶測になりますが、9 社連合による開発・運営は、お金の流れに問題があると考えている。特別目的会社を設立した方が、羽田イノベーションシティの開発がしやすいと判断されたと思う。

丹羽委員より質問

Q. 羽田空港跡地の持ち主はだれか？

A. 羽田空港跡地は、国の土地となる。大田区が国より購入し、SPC に貸している。

人見委員より質問

Q. 工場アパートの具体的な利用は、どのように行っているか？

A. 工場が集積したアパートであり、具体的には、5階建ての建物に50社くらい入っているような建物になる。床荷重を2tや1.5tに設定し、機械をいれて、ものの製造・加工を行っている。

また、上層階では、研究施設になっている場合もある。大田区内には4つ、5つ工場アパートがある。最近では自治体主導で建築するのではなく、民間で建設した建物に補助を出す方向にシフトしている。

福島委員より質問

Q. 工場アパートの建築物の用途の区分・分類はなにか？

A. おそらく準工業地域である。

久保田委員長より質問

Q. Pi0 PARK が主催するイベントに桐生の企業は参加可能か？

A. 参加可能である。ぜひ相談を。

### (3) 参考となる点及び課題

・小規模事業者に対して、Pi0 PARK が行っている下記の勉強会は、参考になると考える。

①グローバルビジネス勉強会：海外市場を目指す大田区企業の勉強会

②ベンチャーフレンドリー塾：大田区内外のものづくり企業とスタートアップの関係者による会員制の勉強会であり、両者のポテンシャルを融合し、共に新市場を切り拓く具体的な方策を議論し、会員企業間の連携を醸成しながら、商機とリスクを分析した上で課題解決するための知見を深めていく。

③自社商品の作り方勉強会：脱下請け、メーカー化に向けた取り組み

・Pi0 PARKで大田区産業振興協会が主催するイベントは、テーマが特化し、最先端技術にも利用されているので、参考になると思われる。

・大田区産業振興協会が中小企業向けに行っている「受注発注マッチング」の相談員は、大田区内企業を訪問して、技術情報把握している点は参考となると考える。

・大田区内の工業製品の技術力を示すための常設展示場所がPi0 PARKにあり、創業スクールから企業後の登記、マッチング、実証実験などの一連の流れがワンストップで受けられることが大きな魅力である。

・仲間まわしという仕組みづくりは勉強になった。仲間まわしとは、例えば、自分のところでは「切削」作業しかできなくても、「穴あけできる工場」「研磨ができる工場」「アSEMBリーに対応できる工場」といったように、近所の工場に得意な工程を担ってもらい、発注された製品を製作して納品していくネットワークのことである。

#### ◎視察成果による当局への提言または要望等

大田区産業振興協会や大田工業連合会と桐生機械工業連合会との交流やPi0 PARKで行う勉強会やイベントで知識を深めることで、問題解決の糸口やあらたな事業展開の夢を語る方がいると思う。ぜひ、桐生近郊の方が大田区の最先端技術や匠の技を見る・触る・まなぶ機会を作ることを当局に要望する。

また、「大田区の仲間まわし」から「日本の仲間まわし」に進化させようとしている。今後は、全国の製造業集積地への展開、拡大のために、IoT推進ラボ、産業のまちネットワークなどでつながりのある自治体へのアプローチを実施していくとのことであるため、桐生市とのつながりを深めるイベント計画を望むものである。